

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173700287), 法人名 (有限会社グループホームコスモス), 事業所名 (有限会社グループホームコスモス), 所在地 (北海道伊達市長和町609番地), 自己評価作成日 (平成27年10月13日), 評価結果市町村受理日 (平成27年11月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の健康管理(バイタル測定、特に口腔ケアに力を入れている。)
・リハビリの一貫として午前中は30分間歌を歌う、午後はラジオ体操、フーセンパレーを1時間毎日行う。
・行事(春は桜梅見、夏は洞爺湖(レークヒルの草原で遊ぶ)、白鳥大橋ドライブ、駐車場では花火大会、秋は紅葉狩等、季節に応じたアウトドアで楽しむ。
・毎月の勉強会でのケアの向上についての意見交換(虐待防止についての読み合わせ)
・自然環境を活かし畑作の実りに親しめる。美味しいカボチャや栗の豊作の収穫を楽しむ。
・利用者の変化に応じた対応

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0173700287-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年10月30日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの環境
国道に架かる長流橋を越え、壮瞥に向かう恵まれた自然と長閑な地域にあって、コの字型2ユニットの施設は栗の木・花壇・畑等に囲まれ、共用空間・居室は介護設備と共に居心地の良い環境にある。
2)職員の態度・姿勢
穏やかで、笑みと共に優しく、利用者に丁寧に、よく聞き、理解して介護支援に努め、かつ日常、基本的な介護等の学習を重ねている。
3)家族や利用者の満足
アンケート結果は回答頻度も高く、職員の介護姿勢や態度に好感を示し、高い満足を表している。このことは職員のアウトカム評価の内容を裏付けている。
4)運営推進会議の開催状況
定例に開催し、地域の役員、家族、市行政の役職者等の参加の下に、運営・活動状況の資料を提示し協議・検討の成果を議事録に記録して周知している。
5)地域との連携
長和地区は市内の第9区域として区社協・地区住民の活動・長和神社の祭礼などと共に、利用者の支え手として親しく交流を進めつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding user needs, staff interaction, user independence, staff support, user outdoor activities, and user safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げている利用者の尊厳を保ち、当たり前の生活が送れるように各利用者にそってケアに取り組んでいる。	職員は利用者の尊厳に立ち「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに穏やかに、明るく、当たり前の営みを支援するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や学芸会の参加。お祭りの神輿がホームのホールに来て舞ってくれている。	地区協議会や自治会との交流を深めつつ、地元長和神社の祭礼、小学校等の活動への参加など地域の一員としての関係や役割を果たすよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩開始等のお知らせ、運営推進会議への近隣の主婦に見学、臨席してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や対応、活動内容を報告をし、家族からは意見を訊いている。	会議は定例に開催し、行政・自治会・家族等の参加の下に、運営活動資料を提示して協議・検討を重ねて、参加者の意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは連絡、相談や指導を受けながら協力を受けてサービスにつなげている。	市の役職者に運営推進会議の参加を得て、直接的な運営方法への助言を得るなど、行政の窓口との交流と共に事業の運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中施錠をしていない。やむを得ない場合、ドクター指示の抑制はしている。	職員相互がサービスの指定基準や拘束の多様な対応の理解に努め、個々の利用者の虐待や人権を損なうことのないよう、学習と実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回、勉強会を開き研修している。スタッフ間での情報を共有し虐待防止について、読み合わせし研修している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があるので、活用して学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、疑問な点について質問する様、説明しているが、家族からの質問はない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、意見箱を設置している。面会時や運営推進会議時に意見や提案を聞いている。	意見箱の設置や訪問時の記録、家族との話し合いで意向を把握、また、運営推進会議での家族の意向と共に運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議、ユニット会議の時に意見交換をしている。	月例の職員会議とユニット会議では、利用者本位の自立支援をモットーに、率直な意見交換を交わして支援の向上に努めると共に、必要に応じた個別相談の時間を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人に合わせ勤務時間の調整を行っている。キャリアパスが生かされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講、勉強会、資格取得について積極的に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連絡会や外部研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を緩和するため、傾聴しながら行動を見守りコミュニケーションを取り、共に過ごす時間を多く持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合いを持ち、書面に記入して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活習慣や認知の程度を見極め、話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業などスタッフと一緒にしてもらい、生きがいを感じてもらえるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月コスモス便りにて状況がわかるよう送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚の面会は自由に行っている。	家族や親戚の対応を促し、馴染みの機会を支援すると共に、日常的なレクには馴染みの流行歌を共に楽しむなど、工夫を重ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考え、席などを決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談を受けた時には、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重して好みの飲み物を提供したり、パソコンをしている利用者もおられる。	契約の初期段階からアセスメント様式で、家族と共に思いや意向を把握し記録に留め、その後の変化に応じた対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、全ての情報を把握し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入し、朝、夕の申し送りで見状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、その結果に沿ったプランを立てている。	職員全員によるチームケアを基本姿勢に、支援過程の実践・観察・変化への対応等職員相互の職位を通じた協議を重ね、家族の理解を得て介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にその計画を反映させて記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に沿い、カーレクや買い物等に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作りや栗拾い等をし、豊かな暮らしを楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	定期受診、必要に応じて往診を受けている。	利用者のかかりつけ医を基本に、個々の心身の状態に応じた受診支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書、看護添書を取り交わし共有し関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の同意書を受けている。	重度化や終末期に関わる支援には契約の初期に看取り介護の同意を得て、状況に応じた支援対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の立ち会い訓練、及び救急対応の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は取り組んでいる。自主避難訓練も行っている。	年2回の想定訓練に努めて、避難方法等の体験や備蓄等の対応に努めている。	近年の多様な自然災害は厳しく、関係官署のハザードマップ等対応の在り方や指示について留意されると共に、地域関係者と共に相互の役割分担など、きめ細かな協力関係を維持されるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、本人を尊重し対応している。	利用者個々との対応については、その人なりの個別性、習慣・経験等を踏まえ、その言葉・態度などに配慮して対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望みを叶えるよう職員は努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や白髪染めなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むき、栗の皮むきなど職員と一緒にワイワイやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に合わせ食事、水分量を決め提供し摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回、口腔ケアを実施しモンダミン等で口腔清潔を保持している。ペグの方も3回口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の仕草や排便の仕草、行動を捉えて時間を計らい声かけ誘導している。	排泄の自立を目的に、個々の心身の状況、日常生活の排泄パターンや動作に留意して支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にバナナケーキを提供し便通を促し、水分量を増やしたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があった場合や体調を考慮して入浴している。	利用者個々の心身の状況や生活状況に合わせて、出来るだけ楽しく・進んで入浴できるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、歌唱(約20曲を30分間で歌う)、風船パレーで体を動かすことによって、夜間の安眠につなげる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぎ飲み込みの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	刺し子、オセロ、編み物、雑巾縫い等を共に行って気分転換をはかっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食、花火などしたり、花見は家族の参加もある。	外出は広い前庭、隣接の閉じた小学校、安全な周辺通路に恵まれている。また、外食や花火、花見、神社祭礼など外出の機会を多く持てるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っている方もいるが、使う状況がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば対応している。電話は本人の希望で対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さがあり、十分な活動が出来る空間があり、落ち着けるように配慮している。	各ユニットごとの食堂を中心に共用空間とすると共に、ユニット間に「交流ホール」を持ち、相互の企画行事や外来客を迎えるなど多様な活動の場として活かしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然体で気のあった仲間でお話している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の物を置いて、自分の部屋と思える環境づくりをしている。	個々の馴染みの家具や設備・備品を備えて、居心地よい居住環境となるよう支えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアには大きく書いた紙を貼ったり、洗面所にも注意書きの紙を貼っている。		